

報告事項

「ケータイ・インターネットを考える高校生フォーラム」の実施結果について

「ケータイ・インターネットを考える高校生フォーラム」の実施結果について、別紙のとおり報告します。

平成24年3月17日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

「ケータイ・インターネットを考える高校生フォーラム」の実施結果について

家庭・地域教育課

1 概要

高校生自身がケータイ・インターネットとの関わり方について考え、取り組んできた自発的なモラルづくりや啓発活動の実践を発表し議論しあうとともに、それを県内の高校生が問題意識を広く共有し、その解決へ向けた生徒自らの取り組みを推進していく「ケータイ・インターネットを考える高校生フォーラム」を開催した。

2 主催 ケータイ・インターネット教育啓発推進協議会

(青少年のケータイやパソコン等とのより良い関わり方について協議し、ケータイ・インターネット教育啓発の推進を図るために組織した団体で、マスコミ、携帯電話事業者、青少年健全育成団体、学識経験者、PTA、関係課で組織)

3 日時 平成24年2月13日(月) 12:30～15:30

4 会場 倉吉未来中心 小ホール

5 参加者 230名(高校生・教員:27校160名、PTA関係者、協議会関係者)

6 内容

<実践発表> 岩美高等学校 「岩美高宣言とその後」

鳥取商業高等学校 「気づこうマナー 築こうモラル」

鳥取中央育英高等学校 「育英生が携帯電話とどう向き合っていくか
～From parents of Ikuei students～」

米子高等学校 「未来に向かって つなごうモラル」

<パネルディスカッション>

テーマ「ケータイ・インターネットと高校生」

コーディネータ 福浜隆宏(日本海テレビジョン放送アナウンサー)

パネリスト モデル校代表生徒4名、

保護者代表2名(県高等学校PTA連合会、県PTA協議会)



<実践発表>



<パネルディスカッション>

7 モデル校の実践発表の概要

＜岩美高等学校＞「岩美高宣言とその後」

(H22年度)

○生徒、保護者へのアンケートにより実態を把握。

(一番多い使用時間は、2時間以上)

○アンケート結果をもとにクラス討議。

○クラス討議を経て、生徒集会で「岩美高宣言」を採択。

(H23年度)

○合格者登校日で「岩美高宣言」を説明。

○生徒手帳、学校案内パンフレットに「岩美高宣言」を掲載。

○「岩美高宣言」から再びアンケートを行ったが、昨年度とほぼ変化がなかったため、校内フォーラム開催し、生徒会が自分たちができることを提案した。(10/27)

○生徒が使用時間の制限などの冬休みの目標を各自設定し、ほとんどの生徒が目標を意識して使用できた。

○冬休みの反省をもとに、今後に向けたクラス討議。(1/10)

⇒ 今後もケータイ使用の改善について継続的に目標を持ち、浮いた時間の有効利用に取組みたい。

＜鳥取商業高等学校＞「気づこうマナー 築こうモラル」

○生徒と保護者にアンケートを実施し、その結果と分析を全校生徒に報告。

- ・1日の使用時間2～3時間が約半数。中には1日6時間以上が6%。
- ・フィルタリングをかけている割合は約半数。
- ・保護者も、高校生の携帯所持についての反対意見は少数。

○生徒自らが脚本を書き、制作した生徒向けの問題提起ビデオを作成。

(ブログや掲示板でのやりとりにおいて、メールアドレスやうわさなどの何気ない書き込みが個人情報や著作権・肖像権の侵害にあたり、その違法性について問いかけるショートフィルム)

- ・法律の関係については、事前に警察に確認。
- ・ビデオの中の問題点について全クラス内で討議。

⇒ 知らず知らずのうちに人を傷つける可能性があるため、自分がされて嫌なことは人にしてはいけない。

＜鳥取中央育英高等学校＞「育英生が携帯電話とどう向き合っていくか

～From parents of Ikuei students～

○生徒と保護者にアンケート調査及び集計、分析。

平均使用時間は 102 分で、メールのやり取りが中心であり、フィルタリングは半数が設定している。

○アンケート分析をふまえ、生徒会が生徒総会で問題提起・啓発

(生徒へ)・使用時間を減らし、勉強・部活・家族の時間を増やそう。

(保護者へ)・家庭でのルールを決めて、会話の時間を増やそう。

○提言を具現化するため、全校で使用時間を減らす「携帯チャレンジ」を実施

Aコースー1週間使わない Bコースー1日30分以内

Cコースー1日1時間以内 Dコースー1日2時間以内

(Aコースは難しいが、B～Dコースは7割以上の達成率。)

⇒ 自分の使い方を知ることによって、使用時間などを考えるようになり、改善できることがわかった。家庭内のルールづくりなど、適切な使用についての啓発を続けたい。

＜米子高等学校＞「未来に向かって つなごうモラル」

○生徒と保護者に対して、ケータイ・インターネットについてのアンケート調査及び集計、考察。

- ・ 使用時間は2～3時間前後が多く、5時間使用も1割強
- ・ (生徒) フィルタリングは50%だが、65%は必要と認めている。
- ・ (生徒) 使用時間や料金などのルールを作っているのは25%。
(ルールがあると回答した保護者は62%で意識のずれが大きい。)
- ・トラブル経験は7%で、人を馬鹿にするメールの転送や架空請求

○姉妹提携校の韓国・釜山デザイン高校の生徒とケータイ・インターネットについて討議。(1/22交流会)

釜山デザイン校では、「朝、先生が預かり、帰りに返却する」

フィルタリングは韓国にはないにもかかわらず、トラブルはあまりないことから、使う人のモラルが大切であることを認識した。

○学習成果発表会の開催(米子市文化ホール)

⇒ ケータイを使うからには、責任感を持つべきであり、上手く付き合っていく方法を考えていきたい。大人もモラルやマナーを考えてほしい。

8 パネルディスカッションの概要

<主な意見>

高校生	<ul style="list-style-type: none">・自分の知識や使用状況を、自ら把握しておくことが大切である。・取組みやすい目標から始めると達成感があり、継続しやすい。・聞くだけでなく、自分がやってみることによって意識が変わってくる。・ケータイに時間をとられると、親子の会話や勉強時間が減る。・メールはただの文字で相手の表情がわからないので、コミュニケーションの点でも難しい。・学校一斉のノーテレビデーのように、皆で一緒にすると取組みやすい。・当初は、「やらされた感」があったが、取り組んでいくうちに、自分たちが考えて取り組むことの重要性に気がついた。・未成年は親の影響も大きいので、親も学ぶことが必要だと思う。・フォーラムは、他校の取組みを聞け、自校の取組の参考にできるし、全県で競い合うのもよいと思う。
保護者	<ul style="list-style-type: none">・高校での正しい利用のしかたを学ぶことは、社会に出たときの準備としての意味を持つ。・保護者もついていけず、家庭で教えきれない部分もあるので、学校で正しい知識を一斉に教えてほしい。・保護者の意識が変わり、安心のために低年齢の子どもにも持たせる傾向があるが、正しい使い方がわかるようになってから持たせるべきである。

9 参加者の感想

(アンケート結果)

「たいへんよい・よい」・・・高校生95% 教員・保護者97%

- 我が校でも実施すべきであり、他校の取組みが参考になった。(高校生)
- 自校は生徒会活動があまり活発でないので、その面でも参考になった。(高校生)
- ケータイにルールが必要であり、よい使い方がわかった。(高校生)
- 生徒会等で高校生が自主的に考える機会が必要と感じた。(教員)
- モデル校の生徒たちの意識が高く、本校生徒のよい見本・目標となる。(教員)

10 フォーラム全体を通しての成果及び今後の課題

- アンケート等により、自らの使い方を高校生自身が知り、使用時間やルール・マナーなどを自らがコントロールしていく力をつけることが、社会人になる前に必要である。
- 一人ひとりが、やりやすい目標設定からはじめ、常に意識しながら、自分の生活を見直し、継続的な取組を行うことが必要である。
- 生徒はもちろん、保護者もケータイ・インターネットについて勉強し、モラルやマナーについて考え、親子でルールを決めていくことが必要である。
- 高校生や生徒会が自主的に取組み、お互いの活動を発表しあい、刺激しあう場を持つことは有意義である。
- ケータイの1日の使用時間の平均が2～3時間、中には5時間以上というケータイ依存の高校生もあり、学力向上の面からも生活の質の向上の面からも、学校全体で取り組む必要がある。

11 その他

- 来年度も本事業を実施し、新たなモデル校を指定し、高校生の主体的な取組を推進する予定。（2月議会に提案中）
- 高校入学前に、携帯電話を購入・契約するケースが多いので、3月に保護者と生徒にルールを決めて正しく使うことを促す広報を重点的に行う。（テレビ、新聞、広告塔等）
- リーフレットを作成し、合格者説明会等で指導してもらおうよう各高校に依頼した。
テーマ：「正しく使おう！ケータイ・スマホ」
～「知らなかった」では危険すぎる～
内 容：利用時間・利用内容などのルールを親子で話し合っ決めて「ケータイ契約書」をPR